

忙しい方必見！両立するための勉強法

TAC宅建講座 主任講師 木曾 計行

宅建試験には合格したい。しかし、仕事・家事・学校なども忙しい。まさに、時間との勝負です。さて、どうすればよいか。

1. まずは、敵を知る。そして、やるべきことを絞る。

試験の合格対策ですから、まず、目標(敵)を見定めておきましょう。

(1) 全体の得点目標

年 度	合格率	合格点
平成18年	17.1%	34/50
平成19年	17.3%	35/50
平成20年	16.2%	33/50

50 問のうち **35 点程度**とれば合格できます。**7割**。とれる点数です。

(2) 各科目の得点目標

年 度	合格点	民法等	法令上の制限	宅建業法	その他関連
平成18年	34/50	7/14	6・7/8	17/20	4/8
平成19年	35/50	7/14	6/8	18/20	4/8
平成20年	33/50	9/14	5/8	14/20	5/8

※ 今年から、本試験の科目ごとの問題数が変わりましたが、このデータは、変更後の出題数を前提としたものに換算しています。

(3) 基本のマスターに重点をおく

「社会全体の富の 80%は 20%の人間に集中している(全所得の 80%は、人口の 20%のお金持ちが持っている)」という考え方をご存じですか？ パレートというイタリアの経済学者が発見した**パレートの法則**というものです。

宅建試験対策に当てはめると、試験の範囲に含まれる学習事項のうち、20%がマスターできれば合格できるということになりそうです。20%というのは、ちょっと極端ですが、役に立つ考え方です。**物事は少数の要因によって左右される**ということです。

つまり、**宅建試験の合格も、いくつかの重要なもの、出題頻度の高い事項がしっかり学習できたかどうかにかかっている**、ということです。まんべんなく学習する必要はない。時間がないのですから、具体的には、**まずは、重要度の高い基本事項をマスターする**。

では、その基本事項だけで、どれだけ得点できるのでしょうか。全 50 問のうち、正答率 70% 以上の問題(基本問題)が平成 18 年は 23 問、平成 19 年は 32 問、平成 20 年は 23 問でした。つまり、合格点の 7割程度、年によっては合格点の 9割以上の問題が基本問題だということです。基本事項が確実にマスターできれば、合格はぐっと近づくといえます。まずは、**基本のマスターに重点をおいてください**。

2. 次に、自分を知る。

(1) 決意の確認とその持続

なぜ宅建試験を目指すのか？ もう一度確認しておきましょう。ここが出発点です。宅建業を自営している、勤務しているから必ず合格しなければならない。銀行・建設業だけどやほり仕事で必要。学生の方や主婦の方なら、就職活動に不可欠。他の資格へのステップとして必要等々。その宅建試験を目指す動機は皆さん1人1人様々でしょう。しかし、いずれにしても、**この決意が、その後の学習効果に影響**してきます。特に、**お仕事などの両立を考えれば、決定的に重要**です。しっかりと考えてみてください。

それがしっかり固まれば、**最初の決意を忘れないで、合格を目指して、学習を継続**していくことです。これこそが、合格の原動力です。

(2) ご自分に残された時間は？

これから学習を初めても1年もありません。皆さんは、**宅建試験合格に向けて、どれぐらいの時間を割くことができますか？**

ご自分の宅建試験対策に当てられる、時間を出してみてください。お仕事・学校・家事など生活に必要な時間以外に、どれぐらい学習時間を確保できますか。例えば、1日1時間とすれば、300日で300時間。十分合格可能な時間だと思います。

継続は力なりです。できれば**毎日、1時間でも結構、学習を続けてください。**理解・知識がだんだんと積み上がっていきます。

この点、**講義に参加するのは大変有効な手段**です。講義に参加すれば、**理解が容易になりますから、時間の短縮にも役立つ**はずです。

さらに、**学習は、机の前でなくとも可能**です。通勤通学のわずかな時間、家事の合間などいつでも、学習可能です。「時間がない」と嘆かれる前に、時間の有効活用をお考えください。

(3) 自律的な性格ですか？

学習の継続には、当然、ご自分を律していくことも必要です。

ただ、自分を律するといっても、それぞれの性格によって千差万別、むしろ、人間のことでですから、なかなか難しいことがあるというのが正直なところでしょう。**会社でのつきあいもある、お仕事を疲れて机に向かえないこともある。普通といえば普通にあることです。独学での合格が難しいのも、おそらくそんな所に原因がある**のでしょう。

そんな危険性を考えれば、**学習に向けて自分を拘束する環境をつくることも有効**です。

例えば、講義に参加する。定期的に講義が実施されるわけですから、とにかく授業には参加する。何とか、教材をこなしていく。さらに、**途中での学習放棄・脱落も避ける**ことができるでしょう。

(4) プラス思考でいてください！

また、よく**プラス思考**とか、**マイナス思考**とか言われます。皆さんは、**どちらのタイプ**ですか？おそらく**マイナス思考**ばかりでは生きていけませんから、**プラス思考**で生きておられる。そして、その程度は様々でしょう。

試験に合格するためには、プラス思考が大いに役立ちます。

例えば、答練の成績。2回目の成績が、1回目よりも下がってしまった。マイナス思考でいけば、「合格できないかもしれない」「仕事も忙しいし、やめようかな」となる。プラス思考なら、「もっと点数をあげよう」「どう工夫すれば成績が上がるんだろう」となります。もちろん、後者の方が、**合格は近くなります**。

その上、人間は、うれしいことはよく覚えているそうですから、プラスを考えれば、記憶力もアップします。いつも成績アップを思い描きながらがんばってください。

3. 合格するための年間スケジュール

これから期間を、①**基礎力養成期**、②**応用力養成期**、③**実力完成期（直前対策期）**の3つの時期に分け、スケジュールをたて、その時期に応じた**目標を1つ1つ達成**していきましょう。徐々にステップアップしていく。

両立を考えたとき、やれるときにやればよいというのでは、学習ははかどらず、結局頓挫してしまいます。講義を受講される方は、講義の進捗に合わせて進めていくのが効果的でしょう。

タイムスケジュールは、上記の分類を前提に立てるのが効果的ですが、**学習内容の側面**からは〔A. **インプット**〕と〔B. **アウトプット**〕に着眼して組み立てることが重要です。インプットというのは、必要なことを理解し、整理し、記憶していくことです。また、アウトプットというのは、つかんだ知識を使って、問題を解き、問題解決力を養成していくこと、つまり、問題練習のことを指しています。

(1) 基礎力養成期（8月まで）

この時期は、徹底的に、合格のベースとなる**基礎力の養成**に努めてください。

内容的には、**インプットが中心**になりますが、**インプットを効果的にするためにアウトプットも並行**して学習する必要があります。

(2) 応用力養成期（8月から9月）

この時期は、**基礎的な事項を確認・補強**をしながら、**問題の比重を高め、問題解決力をつける**ことに努めてください。**問題を解くという実践的な学習**に時間を割いてください。

特に、宅建試験では、科目により程度の違いはありますが、**事例の形式をとった問題が多く出ます**から、**事例問題の解決力**をつけておく必要があります。具体的なケースから、**問題を分析し、ポイントをつかむ力**をつけるようにしてください。**答練**などの問題を解くときは、じっくりと、**図を書きながら練習**してください。

(3) 直前対策期（9月から10月）

本試験に向けて、これまでの学習によって積み重ねてきた理解・知識を**本試験時点で最高レベル**にもっていけるようにしてください。

インプット面では、重要基本知識を中心として**直前の総整理を徹底的に**。また、今年の**ヤマ**については十分に対策を立てておいてください。

さらに、内容的にもまた形式的にも**本試験レベル問題**を解くことによって、アウトプット面での**実践的な訓練**が必要です。

なお、**TACの講義**では、次のように、**合格に必要な各種のアイテム（講義や教材）を順番に学習**して頂きます。

	①基礎力養成期	②応用力養成期	③直前対策期
A. インプット	入門講義	解法テクニック講義	直前対策講義
	基本講義		
	まとめ講義		
B. アウトプット	ミニテスト	応用答練	直前答練
	基礎答練		公開模試

4. 合格するために効果的な学習方法

(1) 過去問の学習なくして合格はない

宅建試験では、過去に出題されたものと同じ知識が何度も出題されます。また、過去問の分析によって、本試験対策としての学習範囲、深さがわかります。本試験の出題傾向に沿った効果的なインプットの仕方が身に付くと同時に、本試験独特の出題パターンを体得することもできます。

そこで、誰もが過去問を検討するのはです。ですから、それを行っていないと他の受験生との間に差がついてしまうことになります。過去問の攻略なくして、合格はあり得ないということができます。

(2) 覚え方の工夫も必要

宅建試験に必要なことを頭に入れるためには、理解する（講義を聴く、本を読む）、反復する（繰り返す）、知識を使う（問題を解く）の3つが必要です。

「覚えたことがどれぐらいの時間で頭の中から消えてしまうか」に関するデータとして、エビングハウスの忘却曲線というものがあります。ご存じでしょうか。

1時間後には、覚えたことの56%、1日後には74%、そして、1ヵ月後には79%、が思い出せない（忘れてしまっている）という、かなり、ショッキングなデータです。

このことから、①適切な時期に反復する・繰り返すことが重要だとおわかりになるはずです。具体的には、テキストを読んだり、講義を聴いた、その日か次の日には、復習をすることによって記憶を定着させることが重要だということです。

ただし、この実験データは、kip, tes, raz のような無意味な語句のつながりをいくつか覚えて、その再現率を調べたものだということには注意する必要があります。逆に考えれば、意味をつけて覚えれば、忘却率は下がる（よく覚えている）ということです。

そこで、②丸暗記ではなく、まずは、体系をつかんだり、理由を理解して上で、覚えていくことです。理解重視の学習をしてください。